

様々なかかわりの中で学び、社会の一員として貢献できる社会人の育成 ～「家庭・社会の期待に応え、夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要な力の育成」と「個性や能力を発揮して活躍し、学び続ける、活力と連帯感のある人づくり」～				評価内容 評価…4段階 A:75～100% B:60～74% C:40～59% D:0～39%						
No	基本目標	施策	重点内容	評価内容(教師用)	評価	%	児童生徒用評価内容	評価	%	改善の手立て
目標1	夢と自信をもち、可能性に挑戦するために必要な力の育成	①ねらいや学習方法、内容等を明確にし、学びの過程の質的向上を図った授業実践	ア:ねらいや評価規準を明確にした、指導・評価・補充のある指導(「授業マニフェスト4」の徹底)	□ねらいや評価規準を明確にし、達成のため、学習状況見届けの方途をもって授業に臨み、授業終末には児童生徒の学習姿勢や教科の学び方を評価することで、児童生徒が自らのよさや成長を実感できる授業づくりに努めている。	A	83.8%	□自分の考えや、できるようになったことや分かったことを、実演や発言などで仲間に伝えたり、ノートに書いたりしていますか。	A	82.0%	授業終末において、生徒の学習姿勢や学び方について認めたり褒めたりすることを確実に行うことで、生徒が充実感をもって授業を終えることができるようにする。また、生徒が自分の考えやできるようになったことを自信をもって仲間に伝えられるような手立てを講じる。
			ウ:授業→復習→授業のサイクルを習慣化し、学力を高める家庭学習の充実(家庭学習の習慣化)	□学校の授業と家庭での学習のつながりができるよう、タブレットパソコンも活用しながら、家庭学習について指導の充実を努めている。	B	63.6%	□進んで家庭学習に取り組み、できることや分かることを確かめたり、増やしたりしていますか。	B	74.8%	以前に比べてタブレットパソコンの活用頻度は確実に増えている。しかし、家庭学習での活用がタブレットドリルしかできていない。今後、タブレットを使った家庭学習に発展させていけるように工夫する。
		②豊かな心の醸成	ア:物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業	□児童生徒が自己の生き方についての考えが深まるよう、単位時間の授業の指導方法の改善を努めている。	A	77.8%	□自分の思いや考えと仲間の考えや思いを比べたり、仲間の思いや考えを聞いたりして、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしていますか。	A	79.6%	ペアやグループ、タブレットの活用などの学習形態を工夫することで、自分の考えを広めたり深めたりする場面を授業の中で確実に位置付けることに取り組む。
		③運動に親しみ、進んで健康安全に取り組む指導	イ:タイムマネジメントでき、自らの健康管理ができる指導	□家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりが構築できるよう指導している。	B	73.1%	□十分な睡眠をとり、朝食を食べて登校していますか。	A	84.2%	学校生活の様子については責任をもって指導をし、家庭での基本的な生活習慣や休日の過ごし方等を中心に家庭との連携に取り組んでいく。
		④国際理解教育の推進	ア:小学校の担任による外国語活動の実践(小学校) イ:All Englishによる授業の実践(中学校)	□英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする活動を位置付けている。(小中) □生徒の発達段階を踏まえたAll Englishの授業を行っている。(中)	B	73.3%	□英語を使って進んでコミュニケーションをしていますか。 □英語の授業では、ほぼ英語だけで学習しようと努めていますか。(中)	B	69.1%	教師側の評価よりも生徒側の評価が低いことを真摯に受け止め、意味のあるコミュニケーション活動を仕組んだり、授業中の英語使用をさらに増やしたりしていく。
⑤特別支援教育の充実	ア:一人一人の障がいの状態やニーズを把握し、可能性を伸ばす指導 イ:特別支援教育コーディネーターの活用	□特別な支援を要する児童生徒に対して、具体的な配慮事項を明らかにし、それに応じた学習活動や環境の設定、働きかけ方等、指導支援を工夫改善している。	A	75.3%					特別支援学級の生徒だけでなく、普通学級在籍の支援の必要な生徒に対しても、個に応じた指導ができるように努めていく。学習支援員からの様々な情報を学級担任や教科担任が積極的に得られるような場を設けることで支援体制に生かしていく。	
目標2	他者と共に社会の持続的な発展を牽引できる多様な力の育成	①キャリア教育・立志教育の推進	イ:一人一人の願いを支援し、自己充実感につなぐ指導	□児童生徒の言動のよさを認めるとともに、その言動に至る願いや思い、過程等のよさを価値付けている。	A	85.3%				教師からの「よかったよカード」「Good Report」等の取組を引き続き行っていきながら、各学級担任が学級の中で一人一人を認め、一人一人を大切にすることにこだわって指導していく。
		②リーダーを育成し、児童会や生徒会の充実を図る	ウ:学級や児童会・生徒会役員等との懇談を充実し、願いを実現につなぐ指導	□児童会等、リーダーの願いを学校内で共有する場を位置付け、目指す姿の具体を共有する等して、学級・学年・学校全体でその実現に向け支援している。	A	78.4%	□よりよい学級をつくろうと、目標に向かって仲間と共に話し合ったり、活動したりしていますか。	A	84.5%	生徒会役員の思いや願いを昼の全校放送を活用しながら広めていく。生徒会のキャンペーン活動や各学年の取組を活動の軸としてこだわりながら取り組んでいく。
		③各学校の特色ある活動の推進	イ:児童生徒が自治的で自立的な活動をつくりあげる指導	□「柱となる活動」の目指す姿の具体を児童生徒と共通理解し、児童生徒が自慢とする活動になるよう、常に願いや具体的な目指す姿と活動を結びつけて価値付けている。	A	78.4%	□学校の自慢を言えますか。その自慢をもっと自慢にできるよう活動していますか。	A	75.8%	学校の4本柱である「あいさつ・授業・掃除・合唱」の中で、コロナ禍で十分取り組めていない合唱以外について、全校生徒の努力の足跡を明らかにし、よさをみんなで分かち合えるような時間と場を設けていく。
		④児童生徒の自己指導能力を高める指導	ウ:自分のよさを客観的な資料をもとに仲間や保護者に自分のことばで伝える懇談の充実	□毎日の生活や学習、各種行事等の教育活動を通して、児童生徒のよさや成長を見出し、評価することで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導援助に努めている。	A	83.3%	□自分が立てた目標に向かって、仲間とかかわりながら粘り強く取り組んでいますか。	A	83.6%	「目標・努力・発見」をキーワードとして、事前の目標づくりや中間評価、事後評価を確実に位置付け、自分の姿を振り返らせることを続けていく。その中で、小さな進歩や努力した課程を認めていくことを大切にしたい。
		⑤いじめ・不登校防止や解決のための継続的な指導	ウ:いじめの早期発見と組織を生かした継続的な指導	□「いじめ」に係る人権感覚を高め、児童生徒の状況を把握するとともに、意図的な取組による個の居場所づくりと集団の絆づくりに努めている。 □児童生徒の状況の把握や早期の相談の機会の設定等、未然防止策を全職員で取り組んでいる。	A	86.3%	□仲間が嫌だなど感じることを言ったり(インターネット上を含む)、したりせず、仲間がうれしいな、もっとがんばりたいなと思うようなことを言ったり、したりしていますか。	A	84.5%	昨年度制定した「岐南中人権宣言」を日常生活の中で、常に意識できるようにひびきあい集会の中でも指導していく。また、早期発見・早期対応はもちろん、嫌な気持ちを持ち帰らせないように、その日のうちに指導できるよう、組織的な指導体制をさらに強化していく。
目標3	活力ある地域コミュニティを構築するためのスポーツ・文化活動の充実	②年齢を縦に繋いだ地域の教育力の向上	エ:学校運営協議会を柱とした地域と共にある協働の学校の仕組みづくりの充実	□地域学校協働活動推進員と連携し、児童生徒が地域学ぶ機会に参加できるように働きかけている。	C	56.3%	□地域の様々な行事に進んで参加したり、地域の方と触れ合ったりしていますか。	C	55.7%	地域行事がまだ中止されているため、学校の方でコミュニティスクールのサポートでボランティア活動を企画したり、地域の方を講師として招いたりしていく。
		③家庭の教育力の向上	ア:ボランティア手帳の活用と一家庭一ボランティア実践	□学校や家庭・地域のボランティア活動の意義を語り参加するよう児童生徒に働きかけている。 □ボランティア手帳を適切に活用させている。	B	66.7%	□学校や家・町内でのボランティアに進んで参加していますか。	C	59.0%	町のボランティアなどの外部での活動が難しいため、学校でのボランティア活動をさらに企画したり、家庭での手伝いに積極的に取り組めるよう指導していく。
		⑥豊かな心を育む教育の推進	ア:今日的な人権課題に基づいた人権教育の推進	□児童生徒に寄り添い、適切な言動で指導・援助している。	A	82.4%	□学校や家や近所で「あったか言葉」を使って話していますか。	A	80.9%	あいさつや相手への言葉かけなど、相手の気持ちを考えた行動ができるようにひびきあい集会だけでなく、日常的に指導していく。
目標4	学びや育ちを支え、誰もが社会の担い手となるセーフティネットの構築	①健康な体づくりの推進	ウ:学校生活管理票の作成と活用	□学校生活管理票をもとにして、該当児童生徒をはじめ、配慮を要する児童生徒を確実に把握し、保護者との面談等を通して確実に対応している。	A	77.8%				アレルギーをもつ生徒に対する対応はもちろんのこと、運動や食事等の制限がある生徒への対応も含めて、情報共有を大切に指導にあたっていく。
		②学校防災体制の充実	ア:場・時・役割や想定を幅広く考え、工夫して行う防災訓練(命を守る訓練等)の実施	□場や時などを幅広く想定した「命を守る訓練」等を実施する目的や意義を自分事として捉える指導や、各教科での防災に係る指導等を行い、年間を通して、児童生徒自らが危険を回避する力を高められる指導を行っている。	A	82.4%	□「命を守る訓練」等では、自分の命は自分で守ろうと、自分で考えて行動したり、進んで真剣に取り組んだりしていますか。	A	81.8%	学校で行う「命を守る訓練」の内容を工夫している。次回は水害についても学ぶ。今後は岐南町のアラート訓練等、計画や予告がない中でも緊急時の対応訓練や意識をもつことができるように、まずは教師が臨機応変に対応していく。
		③いかなる状況下でも「自分の命は自分で守る」意識の醸成	ア:自転車の安全利用の推進、損害保険への加入等、交通安全意識の高揚	□全教育活動を通して、交差点ではドライバーとアイコンタクトするなど、「自分の命は自分で守る」意識を高める指導を行っている。	A	77.5%	□自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶっていますか。 □交差点では、「ドライバーとのアイコンタクト」に心がけていますか。	A	86.5%	多くの生徒たちはヘルメットの着用や交差点等でのアイコンタクトに取り組んでいる。一部の生徒が交通マナーを守らないために、学校として指導すべきことを継続し、PTAや地域と協力して交通安全指導に取り組んでいく。
		④学校施設設備の整備	イ:学校安全点検の実施と確実な修理	□「手」、「目」、「耳」で確かめるなど、遊具や運動施設の安全について確実に確認している。 □普段あまり使用しない設備も含め、設備すべての危険箇所・修繕箇所の状況を把握し、確実に対応している。	A	77.1%	□けがをしないように約束を守って、学校の遊具、サッカーゴールなどの施設や道具を使っていますか。	A	96.4%	生徒たちは学校内の様々な施設や設備を安全だと信じて利用したり、使用したりしている。そこで、私たち教師は事故の未然防止を意識して、校内の施設や設備を点検していく必要がある。不具合があれば、町の生涯教育課とも相談しながら改善していく。
		⑤情報活用能力の育成	ウ:ICT及びデジタル教材等の効果的な活用による学びの充実	□興味・関心を高め、「できた、分かった授業」につなげるため、デジタル教科書や電子黒板等を積極的に活用している。	A	82.4%	□電子黒板や書画カメラ、タブレットパソコンなどを使ったことで、より勉強が分かるようになりましたか。	A	82.0%	公表会を通して、各教科で工夫した活用の輪が広がった。今後はさらに効果的な活用をめざし、すべての生徒にとって有効な学習の手段として使えるようにお互いに学んだことを活かしていく。